

Course number		U-LAS02 20022 LJ37					
Course title (and course title in English)		言語機能論 Language and its Functions		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, MORITA TAKAHIRO	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Arts, Literature and Linguistics(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
				Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2025・First semester	
Days and periods		Wed.2		Target year		2nd year students or above	
				Eligible students		For all majors	
(Students of Faculty of Integrated Human Studies, Faculty of Letters cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
この授業のテーマは「ことばはどこにあるのか」という問いについて考えることである。言語を対象とする学問は言語学だけではなく、哲学や文学、認知科学、脳神経科学、生物学といったさまざまな学問領域でも研究対象にもなり、言語をどのようなものとして捉えるのかという視座が学問領域によってあらかじめ決まっているという側面がある。一方、言語学の内部においても、言語の見方はさまざまであり、領域全体に共通の定説はない。この授業では、言語学をベースとして言語について理解したいと素朴に考えるとき、まずは「そもそも言語はどこにあるのか」と考えてみることで、自分の知ろうとしている言語の姿を浮き彫りにすることを目的とする。そして、何らかの意味で言語を専門とする受講生にとっては、言語の研究とはどのようなものかという自身の答えを導き出してもらいたい。							
[Course objectives]							
・言語を捉える複数の視座があることを理解できる。 ・言語に関わる諸問題に対する、受講生自身の視座を定めることができる。							
[Course schedule and contents]							
言語学の歴史や他分野との関わりを主に20世紀フランス・スイスにおける現代言語学の誕生から概説するとともに、現在の理論言語学で扱われている言語の捉え方を検討していく。単なる概説というわけではなく、自らの経験に則して考えていくことが求められる。 講義計画の概略は以下の通りだが、受講生の関心や議論の方向によって変更を加えることもある。							
1. 言語と言語もどきの境界 2. 外在物としての捉え方 (1)：アメリカ構造主義 3. 外在物としての捉え方 (2)：外在物としての限界 4. 擬制としての言語 5. 普遍性と個別性 6. 動物コミュニケーションとの比較(1)：伝達行為か否か 7. 動物コミュニケーションとの比較(2)：動物にどこまで可能か 8. 内在主義の可能性(1)：統語論の自律性 9. 内在主義の可能性(2)：神経哲学的裏付け 10. 言語と意識の問題(1)：言語能力はどこまで(無)意識的か 11. 言語と意識の問題(2)：何を外在化すべきか							
						Continue to 言語機能論(2) ↓ ↓ ↓	

言語機能論(2)

12. 意味と主観性(1)：共有される意味とそうではない意味
13. 意味と主観性(2)：ヒトという限界
14. まとめ～外在主義と内在主義の融合可能性を探る

[Course requirements]

言語科学IまたはIIを履修済みであることが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

平常点50%，期末レポート50%。平常点は授業中に書いてもらうエッセイ（5回程度を予定）および授業への貢献度で評価する。成績評価は本学評価基準に準ずる。

[Textbooks]

定めない。授業時にレジュメを配布する。

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

期末レポートでは受講生自身が興味の対象とする言語に関する問題についていかにアプローチするかという問いを設定する予定である。紹介された参考文献を読む必要があり，毎回の授業の議論で疑問に思う点や独自の意見があるときに発表できるように準備すること。講義科目ではあるが，単なる座学・知識の吸収といったことだけを目的にするわけではない。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・講義科目ではあるが，履修生の積極的な発言を歓迎する。
- ・講義は配布するレジュメと板書，スライド等を組み合わせて行う。
- ・オフィスアワー，連絡先等についてはKULASISにて確認のこと。メールでの質問は随時受けつける。オフィスアワー以外の時間であってもアポイントメントの相談は可能。

[Essential courses]